2017年度

JICA受け入れ研修コースの実績紹介

「中南米：中小企業・地場産業活性化(A)」

2018年4月25日

（公財）北九州国際技術協力協会　研修部

1. 研修コースの紹介

1)コースリーダー / 北村　隆

2)研修コース 名

・和文：　中南米地域中小企業・地場産業活性化（A）

・英文：　Small and Medium Enterprises / Local Industry Promotion for Latin America(A)

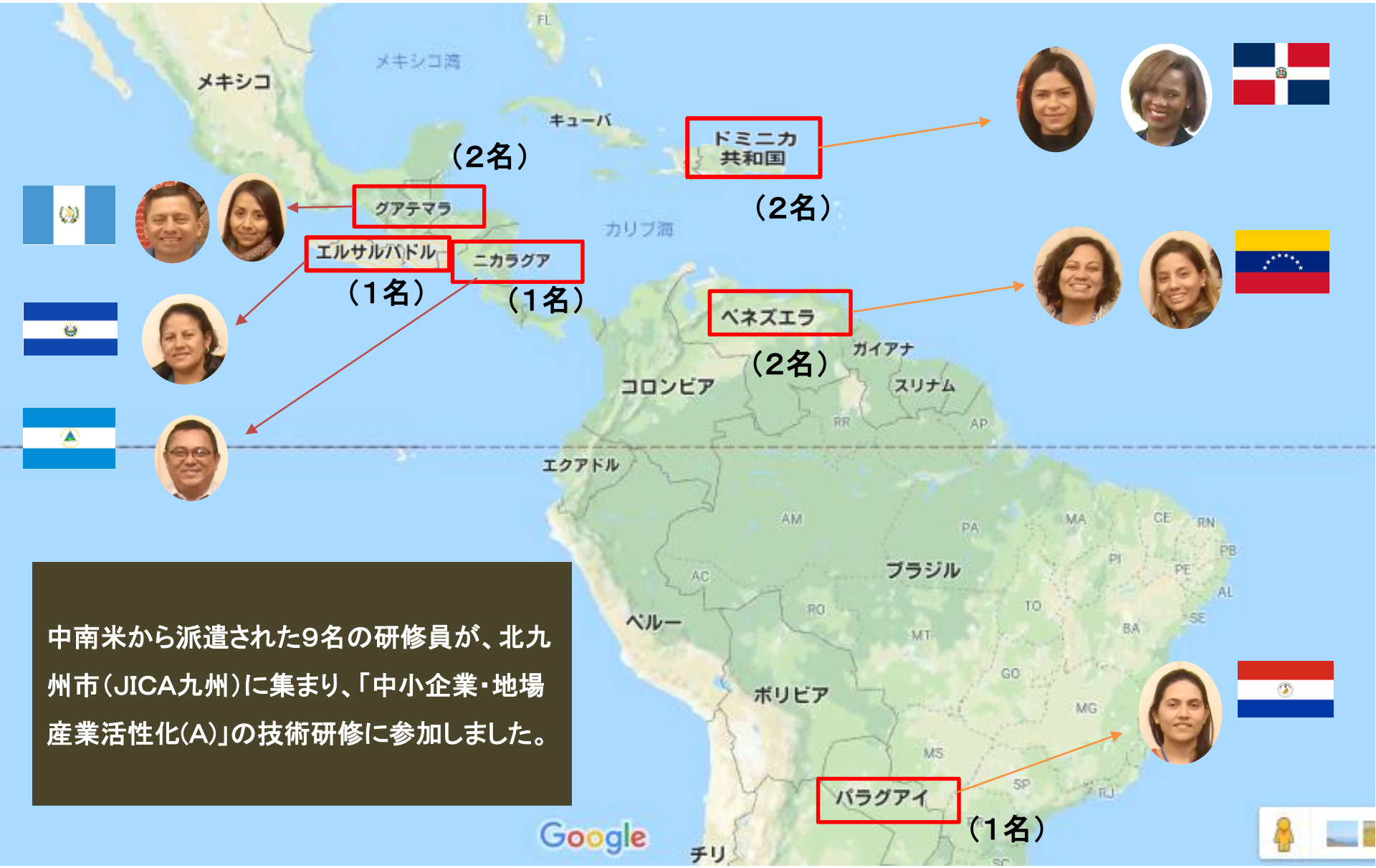
3)技術研修期間　2018/1/19 ～ 2018/2/16

4)参加研修員：　9名　（6カ国）

5)参加国内訳

ドミニカ共和国、エルサルバトル、グァテマラ、ニカラグア、パラグアイ、ベネズエラ

【参加した研修員の国と位置】



中南米から派遣された9名の研修員が、北九州市（JICA九州）に集まり、「中小企業・地場産業活性化(A)」の技術研修に参加しました。

2. 研修目標

案件目標

多くの発展途上国においては、人口や産業が都市部に集中している一方で、農産部は発展途上であり地域格差の問題に直面している。それに対応する形で発展途上国の政府は、地場産業を促進することによって、雇用の創出、地域社会の活性化、農村部の貧困問題の解消に取り組んでいる。これらの発展途上国政府の取り組みを支援するために中小企業への支援措置や地場産業発展のための企業構造の強化について学ぶことを目的とする。

自国で実施

日本での研修

（単元目標Ⅰ）
・第一次産業部門における中小企業および地場産業のための中央政府の措置を理解する。

（単元目標Ⅱ）
・企業や地域の特性を生かした付加価値商品の強化策について学ぶ。

（単元目標Ⅲ）
・競争力のある企業の発展のための人材育成と経営管理（生産・販売を含む）を指導していくことができる。

（単元目標Ⅳ）
・中小企業や地場産業の活性化のための戦略的なアクションを作成していく能力を育成する。

3. 研修科目及び研修先訪問（トピックス）

1）地場産業活性化とその進め方　１月23日

１次産業から2次、3次へのシフト、地方から都市部への人口移動のなかで地方を再生するために行政の企画した施設を紹介。農商工連携は農業と工業の連携による価値の創造が目的で経産省と農水省が連携して推進している。一方、新たな動きとして6次産業化（農産物を生産・加工・販売するスキーム。１次×２次×３次）は、農水省として農家の付加価値向上を支援する目的で推進。それぞれ、申請の仕方など具体的な内容に踏み込んで紹介された。発想や施設の実行スキームなどを研修員が持ち帰りチャレンジしてくれることを期待したい。

研修写真

2）響灘カゴメトマト園見学　　1月25日

福岡ドーム1個、サッカー場8面分の広大な温室で大量のトマトを生産。 20万本の苗を植え、10ヶ月にわたり200個／本の生産をしている。苗に病気の侵入を防ぐため、作業服へ着替え、シャワールーム、手洗いなどをへて工場を見学。
その広大さと科学的な管理に一同感嘆！　エルサルバトル研修員からは自国へ派遣して研修させたいなどの意見もあった。

福岡県北九州市若松区柳崎町4番地

オランダの栽培技術を導入した大規模ハイテク菜園。温度、湿度、灌水などをコンピューターで自動制御。ココ椰子殻から作られた培地を利用して、液体肥料にて養液栽培し、多段収穫を行う。温室の被覆材には日射透過性の高い特殊フッ素フィルムを採用した。

研修写真

３）６次産業取り組み事例（「道の駅むなかた」） １月２９日

国交省主導で1993年に始められた道の駅を見学した。駅長より「道の駅むなかた」の概要について説明を受けた。宗像市の所有する建物を宗像市、商工会、漁業、観光協会、農業組合の5セクターで共同出資した会社が指定管理者となり運営されている。宗像市・福津市で産出したものだけを販売している。農業者・漁業者が商品を持ち込み売値は持ち込み者が決め、所定の手数料を支払うことで運営されている。売り上げは16.5億円（レストランなどをあわせると19億円）で来場者は年間190万人となっている。このような地方自治体と生産者の協働による産直は、売り手、買い手の双方にメリットのあるスキームであり、研修員の参加国においても参考にあるものと思われる。

福岡県宗像市江口1172番地

1.物産直売所における農水産物や加工品等の販売。2.季節の旬の食材を使用した催しや地域の団体と連携したイベントの開催。3.館内レストラン「おふくろ食堂はまゆう」にて宗像地域の特長を活かしたメニューを提供

研修写真

4）茶の栽培の歴史と発展　　２月７日

本コースの主要な目的である第１次産業を中心とした地場産業の活性化というテーマにふさわしい事例として訪問した。
福岡県八女市星野村の茶の栽培と世界に誇れる特産物品としての玉露づくりに地元がどのように取り組んできたかを学んだ。特に歴史、取り組みの意義、位置づけ、行政の支援などを資料にまとめ分かりやすいプレゼンテーションであった。同時に研修員は日本文化に触れると言う意味から和菓子づくりを体験した。
雪で交通事情が悪い中でこの研修訪問が実現でき大変有意義な現場実習であった。

福岡県八女市星野村10816-5

福岡県八女市を中心とする筑後地方は八女茶の産地。その中で星野村は、急峻な山と清流、寒暖の差により高品質なお茶が生産されている

研修写真

5）農協の活動と一村一品運動　　２月９日

550軒(2,600人)の大山町が豊かな地域となるために、また都会で教育を受けた子供たちが継承のために地元に戻ってくるために、地域の人々が考え行動した歴史を大変分かり易く講義して頂いた。山間部にある狭い農地を豊かにするために多品種・高付加価値の作物と加工品の販売、また現地直販と産地直送に取り組み豊かな町をつくりあげた。これらの考え方や取り組みの成功例は各国の研修員にとって有益な情報であった。

＜大久保台より大山町を臨む＞

大分県日田市大山町西大山3487

耕地面積の少ない大山は大規模農業には向かない。少量でも優れたものをつくって行こうというのが大山の設計図でした。
すぐれた農産物をつくるためには、健康で力のある土づくりをしなければいけない。

研修写真

６）農家の取り組み事例（安心院グリーンツーリズム）　２月９日

農泊をビジネスにする取り組み。26年前に始まり現在、広島、京都、北九州から学生が年間8,000人、一般の大人3,000人ほどの利用者がある。韓国など海外からの訪問者もあるとのこと。田舎を持たない子供たちが農泊を経験するとともに人が訪れることがなかった人里離れた農家に宿泊客が来るということで農家に生きる人々に活性化と所得の向上という利点をもたらした。このようなツーリズムの導入は、中南米諸国においても地域発展のための活動として大変参考になった。

大分県宇佐市 安心院町下毛1195-1

大分県北部に位置し、盆地を中心に緑豊かな自然が広がる宇佐市安心院町。昔から米やブドウをはじめとする農業が盛んだったが、人口が減り、高齢化が進むなかで、「土からモノを作るだけの農業では食べていけない」と立ち上がった。

研修写真

4. 研修の成果

1) ウィークリーレポート評価点については、全平均が(4.8)と大変高く、とくに新しく加えた「中小企業を育成発展させる方法」やクラウン製パン講義・見学、茶の文化館での講義は全員が(5)と評価していた。また、研修員の各科目の講義やテキストに対する評価は概ね高く、研修員は本研修にほぼ満足しているようであった。期間や構成人数についても適当と評価した。

2) アクションプラン作成にあたっては、ISSUE-TASKからテーマを導くよう指導し、論理的でプレゼンが理解しやすいものにさせた。テーマそのもの良し悪しは、自身の問題意識と姿勢によるところが多く課題を残した。評価については5人の評価者の平均をとると、(3.1～3.5)点であり合格の評価を得た。本研修は案件目標を達成したものと判断される。

5. 今後に向けて

コース運営を通じて感じたことや研修員への質問票や評価会の議論を通して、今後のコース運営で検討していくべきであると考える項目は以下の通りである。

① 金融機関の中小企業施策

② コンサルティング現場と支援事例

コース全体としては、概ねバランスよく各視点からの講義や演習、見学が配置されているとの評価であったので、骨組みは維持しながら可能なカリキュラム変更を考えていきたい。

5. 評価会（研修員から一口コメント）

研修員(a)
補完できる内容であった。専門的な内容だったので自国の中小企業の支援に役立てられる。
道の駅、中央市場での経験は良かった。

研修員(b)
とても良かった。多くを学んだ研修だった。各人の専門は異なっていたが、そこから学べた。
他の研修員の話を聞くことも良かった

研修員(c)
同僚がすでにJICA コースで研修を受けた。今後は一緒にプロジェクトを行う予定。来日したことで自国のことが良く観察できた。日本が成功した理由は、規律があることに尽きる。

研修員(d)
初めての日本訪問。研修は素晴らしかった。教科によっては、時間が足りなかった。私は公的機関にいるので政府の支援関係をもっと知りたかった。ツールに関する知識も増えた

研修員(e)
素晴らしい研修でした。帰国後、私が始める予定の持続可能な発展を目指す中小企業の支援プロジェクトにとても役に立つ。中小企業の経営者に対して教えている大学でも習得したツールを使ってみる。

研修員(f)
完璧な研修でした。トヨタの工場に行けるとは思ってもいなかった。日本の農村地帯の開発にグリーンツーリズムが使われている例を知ることができた。農業での地元の産品の付加価値についても学習できた。

研修員(g)
素晴らしい機会を与えて頂いた。しかし、JICA 研修で受け入れる研修員の選抜に基準を設けるべきだと思う。非常にオープンな研修であったために様々な人が参加している。そのため、意見交換が十分にできなかった。

研修員(h)
素晴らしい経験でした。個人的にも専門的にも成長できた。私はいろいろな場所を訪問できた。各地とも独自の条件に合わせて発展していた。

研修員(k)
日本に来る前にかなり勉強をしてきた。研修の目標は達成できた。大変満足している。
３週間ぐらいの期間があったらもっと良かった。

6. 研修員スピーチ

研修員の感動スピーチ
（於：閉講式）

閉講式でスピーチされたグレーシーさん（ドミニカ共和国から参加）

Ms. ROMERO CASTILLO Greicy Ederis (グレーシーさん)の謝辞

～研修員代表～

まず初めに、中南米地域中小企業・地場産業活性化コースの閉講式において、研修員を代表してご挨拶できるチャンスをいただいたことに感謝いたします。大変名誉に思います。

この場をお借りして、このプログラムを企画していただきました日本政府とJICA, KITAに心からお礼申し上げます。また、私たちを辛抱強く献身的に支えてくださったコースリーダー北村さんとJICA監査員 江口さんにも感謝いたします。

閉講式で古野理事長より修了書を授与されたグレーシーさん

この研修は、母国の中小企業経営で学んだ情報や知識、経験、教訓を研修員同士で共有する、とても有用な機会となりました。更に、この4週間で、豊富な情報、知識の習得とともに、日本での素晴らしい生活体験もさせていただきました。

アクションプランを母国で実施するための方法を学び、母国の中小企業を再び活性化させるためにどのようなスキルと能力が必要なのかを確認することができました。研修で得た最新の有益な知識を今度は母国に持ち帰り、中小企業支援機関に対して日本で学んだ手法を応用、実践させることができます。

この場は私たちの閉講式ですが、これが終わりではなくそれぞれの母国での努力の始まりになることを願います。提供いただいたものを有効に使い、必要な手順に従い研修目標を実現して国を導いていきましょう。

研修に関わってくださった皆様は本物のプロフェッショナルで、私たちは多大な刺激を受けました。心から感謝いたします。日本は素晴らしい国です。

最後になりますが、皆様から教えていただいて本当に嬉しかったですし、名誉に思います。

ありがとうございました！

講義中の研修員
（JICAセミナールームにて）

初めて見る雪に大喜びの研修員